

令和7年度第1回 刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会会議録

日 時 令和7年7月8日（火） 13:30～15:10

場 所 防災会議室

委 員 塚本 松本 宮田 福島 今井 杉浦 坪井 松浦 南川 高橋 中根 近藤

事務局 加藤直 杉浦 木下 新實 磯村典 加藤良 細山 加藤貴 磯村真 羽田野 喜田

意見・質疑等

1 開会

福祉健康部長あいさつ

2 委員及び事務局職員紹介

3 会長及び職務代理者の選出

会 長 : 塚本委員 職務代理者 : 杉浦委員
会長あいさつ

4 議題

(1) 介護保険関係施設の整備について（資料1）

【説明】 事務局

【質疑応答】

・特になし

(2) 介護保険サービス事業所の指定等について（資料2）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 職員の配置状況について、受け入れ可能人数の記載があるとよりわかりやすいと思われるが
いかがか。

事務局 予定利用者数の記載は可能。次回から掲載する。

委 員 訪問介護相当サービス事業所の新規指定した株式会社n・a・hは、刈谷市内に実績があるの
か。また、通所介護相当サービス事業所を廃止した有限会社グローバルネットワークは他に
事業所を運営していたと記憶しているが、他の事業所はどうなっているか。

事務局 株式会社n・a・hは、令和7年3月に刈谷市内で訪問介護事業所を開設している。運営する
中で要支援者の利用希望があったため、この度訪問介護相当サービス事業所の新規指定を受
け付けた。有限会社グローバルネットワークについて、通所介護相当サービス事業所は刈谷

市が指定権者となっていることから内容を把握しているが、その他の事業については、愛知県が指定権者となっているため、正確には把握できていない。ただし、その他の事業においても譲渡したものと考えられる。

(3) 第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の進捗について（資料3）

【説明】 事務局

【質疑応答】

- 委員 カミカミ体操やエンジョイ教室について、記載された人数は参加人数が記載されているのか。また、新規利用者は把握しているか。
- 事務局 前期、後期ごとの利用延べ人数を記載している。新規の利用者が何名いるかは把握していない。
- 会長 評価結果によって、前期と後期それぞれの利用者数を記載しているものや、前期・後期時点の登録者数を記載しているものがあり、表現が混在しているため、わかるように記載するとよい。
- 委員 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制とあるが、シームレスを推進するにあたってどういった体制になっているのか。また、今後どういった形にしていきたいのか。
- 事務局 入退院時連携シートを詳細に記載できるように変更し、そういったツールを広めることで医療と介護の連携強化につなげていきたいと考えている。また、えん joy ネット刈谷という電子連絡帳を導入している。今後は、登録利用者数の増加に向けた周知やアンケート結果に基づいて連携の仕組みを検討していく。
- 会長 えん joy ネット刈谷について、医療の側から何か意見はあるか。
- 委員 えん joy ネット刈谷は利用している。患者様の情報も分かるためとても有用。
- 委員 基本目標5多様な人材の確保・育成の支援とあるが、多様な人材とはどういった層をターゲットとして想定しているのか。
- 事務局 ターゲットは絞っていない。介護に興味がある方や就職を希望している方を中心に募集しており、一人でも多くの方が制度を利用できるように周知等を行っている。
- 委員 現場では、障害者の雇用をしながら間接業務・直接業務を分けて、介護職員の負担を減らすような仕組み作りに取り組んでいる。こういった仕組みをうまく利用してもらい、介護職員の増加を目的とした支援だけではなく、介護職員の負担を減らすような人材確保も検討してほしい。
- 事務局 実態調査や現在のご意見を踏まえて、10期計画で効果的な施策が展開できるように検討していく。
- 会長 介護現場では専門的な業務だけではなく、家庭の中でも行うようなごく一般的な業務もある。業務を切り出し、スポット的に人材を確保するような施策を検討することが重要。
- 会長 認知症サポーターを事業所に担ってもらおうという点について、今後認知症が増加されると言われる中でとても重要になる。また、専門機関との懸け橋になることが重要。いかにこれを広めていくかを検討してもらいたい。実効的な施策となるように期待している。

事務局 今後サポート事業所を増やしていきたいと考えている。コンビニや銀行、薬局などにも協力を仰いでいく。

(4) 地域包括支援センターについて(資料4-1、4-2、4-3、4-4)

【説明】 事務局

【質疑応答】

委員 困難事例が増加しているとのことであるが、成年後見人制度や認知症事例との関連性があるように思うが、どのように分析しているか。

事務局 関連性は高いと考えている。身寄りがない高齢者の対応が増えており、特に認知症の影響から高齢者自身が契約行為などを行うことができず、成年後見人制度を利用することが多い。その場合家族に代わり市が成年後見人の申し立てを行うことになり、地域包括支援センターも含め多くの時間や関わりが必要になることから、困難事例に繋がっている。

委員 身寄りがない高齢者や虐待ケースなどの困難事例による施設入所の相談が増えている。すぐに入所できる場合は良いが、空き状況や病院等との調整期間が短いなどにより入所が難しい場合が増えてきた。そういった困難事例の場合には、市が介入することにより、スムーズに調整できると考えるがいかがか。

事務局 措置入所などを検討することで、スムーズに調整できるケースはあると思われるが、対応に苦慮することが多く、ケースを対応する側としても難しい状況。できる限り情報共有を行いながら、調整できるようにしていきたい。

会長 困難事例についての出口支援はあるが、予防的な支援も今後必要になってくる。地域の中でどうやって支えていくのかを検討する必要がある、互助自助両方の対応が必要。

5 その他

事務局 次回開催について、令和7年9月17日(水)午後1時30分からとさせていただく。また詳細は改めて通知する。

6 閉会

会長 本日の議題については、これですべて終了した。これにて令和7年度第1回の刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会を閉会とする。